

地域のシンボルとなる生きものの保全を 地区内外のみんなで実施

新潟県：NPO 法人 ^{ごせん}五泉トゲソの会

○団体の活動目的と経緯は？

【目的】

トゲソや湧水の保全と地域づくり

【経緯】

五泉市はトゲソ（イバラトミヨ）の日本生息南限地として知られていたが、ほ場整備等で姿を消したと言われていた。しかし、平成 8 年に再確認され、「まちづくり市民団体」が学習会や現地観察会を開いたことにより、当会の結成に至った。



子ども達との活動風景

○環境保全施設に関する情報

【環境保全施設】柵工がされた土底の用排水兼用水路

【活用した事業等】農村景観・自然環境保全再生パイロット事業

【保全対象生物】トゲソ（イバラトミヨの俗称。トミヨ淡水型）、
ホトケドジョウ、スナヤツメ

○どんな生態系保全の取組を実施？

1. 絶滅危惧種「トゲソ」の保全活動
 - ①「トゲソの自然観察会」の実施
 - ・ 地元市民などを中心にトゲソや湧水の観察会を実施
2. 保全施設の維持管理活動
 - ①水路の江ざらい、草刈、清掃活動
 - ・ 水路の泥上げ等の維持管理活動を実施。近年は地元中学校の生徒や先生の協力を得ている
3. 地域の水環境の総合学習
 - ①勉強会と生きものの調査
 - ・ 地元の小学生（3～5年生）に、水の大切さやトゲソのことについてなどの勉強会及び水路での生きものの調査を開催
4. ブランド米の生産
 - ①保全活動と農業経営間のメリットの創出
 - ・ 農産物に環境保全という付加価値をつけている



トゲソが生息している水路



トゲソキャップ

○継続した活動でこんな効果が！！



生きもの調査の様子

■都市部からのイベント参加者の増加

・参加者は 100 名から 200 名であるが、新潟市を中心として参加者が多くなっている。

■子供たちからの保全活動の呼掛け

・環境学習を受けた子供たちが、スーパーの店頭で、保全活動（水を大切にすることなど）呼掛けをするなど、地域での広がりを見せている。

■トゲソの生息環境の改善

・トゲソの生息数は回復傾向にあり、保全活動がトゲソの保護につながっていることが伺えます。

○課題・苦労した点

■地域環境保全活動への理解・共感

・地域の住民にとって、河川や水路は、自分たちの所有物ではないものとの認識から、活動への理解や共感が得られにくい。

■トゲソ保全活動の PR 活動

・都市部も含めたイベントの参加者を増やし、当会の活動内容を周知することが大切であった。

○工夫した点

■環境学習の実施

・小学校で環境学習を実施することで、子どもたちに興味を持ってもらい、授業参観等で親御さんに発表してもらうことで、親の関心度をあげて、地域住民の理解や共感を得ている。

■地域にある他の魅力と組み合わせ

・地域の有形文化財の見学を、トゲソの生息地観察と組み合わせるなど、生きものだけにこだわらずセットで PR 活動をすることで、参加者を増やしている。

○活動の特徴！！

■保全活動だけじゃない PR 戦略

・地域の魅力（国登録有形文化財や農産物特産品）を、保全活動の PR に織り交ぜることで、より多くの人たちに伝わっている。



○団体の概要は？

- ・平成 9 年度に設立され、活動エリアは新潟県五泉市（旧川東村辺り）である。
- ・平成 18 年度に NPO 法人となり、人員は 74 名。
- ・年間運営費は、助成金・補助金 77%、事業収入 19%、会費 4%となっている。

